

令和7年度第1回ユニバーサルなスポーツ施設検討会 次 第

日時 令和7年7月30日（水）15時00分～17時00分

場所 兵庫県庁2号館5階会議室

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 座長選出
- 5 議 事
 - （1）県内施設との連携方策について
 - （2）県内施設のUD化に向けた情報提供について
- 6 その他
- 7 閉会

＜配付資料一覧＞

- 資料1 県内施設との連携方策及び県内施設のUD化に向けた情報提供 等
資料2 ユニバーサルなスポーツ施設検討会設置要綱等

令和7年度第1回ユニバーサルなスポーツ施設検討会

出席者名簿

日時 令和7年7月30日（水）15時00分～17時00分

場所 兵庫県庁2号館5階会議室

<委 員>

区 分	氏 名	役 職 等	備考
有識者	青山 将己	流通科学大学人間社会学部准教授	
	柳 尚吾	関西学院大学建築学部准教授	
障害者スポーツ 振興団体	増田 和茂	県障害者スポーツ協会理事長	
障害者団体	木村 佳史	県身体障害者福祉協会理事長	
	柴崎 博彦	県知的障害者施設協会スポーツ委員長	
	新銀 輝子	県精神福祉家族会連合会会長	欠席
パラアスリート	大矢 勇氣	車いす陸上選手 県ユニバーサルスポーツ大使	
	笠本 明里	パラ水泳選手	
	久保 秀男	車いすバスケットボール選手	
施設関係者	奥山 隆彦	株式会社ウエルネスサプライ しあわせの村温泉健康センター総支配人	

（各区分での五十音順。敬称略）

<事務局>

役 職	氏 名
兵庫県福祉部次長	野田 誠一
兵庫県福祉部ユニバーサル推進課長	岩切 玄太郎
兵庫県福祉部ユニバーサル推進課班長	西田 勇
兵庫県福祉部ユニバーサル推進課主幹	越智 明日香
兵庫県福祉部ユニバーサル推進課主任	山根 麻奈美

1 本年度の検討会スケジュール

	実施時期	検討内容
第1回	7月30日	① 県内施設との連携方策（圏域拠点の考え方） ② 県内施設のUD化に向けた情報提供（先進施設抽出）
第2回	9～10月	① 県内施設との連携方策（圏域拠点としての具体施設の位置付け） ② 県内施設のUD化に向けた情報提供（先進施設紹介）
第3回	11～12月	とりまとめ

昨年度に検討した県内スポーツ施設への支援方策の方向性を踏まえ、支援方策の具体化や効果的な実施手法等について検討。

① 県内施設との連携方策

施設所在地域や実施競技等を勘案した圏域拠点としての位置付け等、県内施設の連携による効果的な運用方策を検討

② 県内施設のUD化に向けた情報提供

県内スポーツ施設の利便性向上に向けたUD（ユニバーサルデザイン）先進施設事例の提示 等

2 昨年度の検討内容（振り返り）

(1/2)

① 県内スポーツ施設へのアンケート調査、視察による現状把握を踏まえ、ハード・ソフト両面で課題を整理

<主な意見>

ハード面	UD化 (ユニバーサルデザイン化)	- 施設内の整備や動線について障害者が利用しづらいものが多く、<u>ユニバーサルデザイン化が必要</u>。 <u>ユニバーサルデザイン化にあたっては対象が際限なく広がりうるため、事前に対象を明確化しておく必要がある</u>（駐車場、トイレ等）。 - 施設内の標示について、利用者目線での検討が必要。
	新施設の必要性	- パラアスリート利用可能なスポーツ施設は限られるが、<u>障害者スポーツ交流館はパラスポーツのメッカとしてパラスポーツ普及、アスリート育成において重要な役割を果たしている</u>。 - 障害者スポーツ交流館の稼働率は高く、予約が困難。 <u>ぜひ新しい体育館を作り、パラスポーツをより盛り上げてほしい</u>。
	防災面	拠点施設の考え方には<u>防災的な視点も必要</u>。災害時を想定して大きめの整備が重要。
ソフト面	施設職員対応等	- 障害者利用が少ない施設の施設職員については、障害特性への理解が十分とはいえない。また、障害の種別や程度は多様であり、ハード面での対応には限界があることから、<u>研修を通しての施設職員の対応力向上が望ましい</u>。 - 施設職員向け研修では、座学だけではなくOJTの組み込みが重要。 <u>施設職員とパラアスリートとの連携方法の検討が必要</u>。
	利用料金	<u>海外では、健常者・障害者いずれも同一料金、介助者は無料という扱いが主流</u>。 - 障害者利用料金の常時無料化は不適當。 - 民間施設で、介助者の無料・減免等の配慮の拡大が望まれる。

2 昨年度の検討内容（振り返り）

(2/2)

② 県内スポーツ施設への支援方策の方向性提示

<主な意見>

○ パラスポーツ施設のモデル提示

- ・ 先進的なパラスポーツ施設の具体事例をモデルとして提示すべき。
- ・ 実際の利用者の反応を踏まえ、県内施設の具体事例をマニュアルとして用意すべき。

○ 拠点の位置付け

- ・ 拠点の位置付けにあたっては、拠点の考え方の検討が必要（地域別、競技別等）。
- ・ 1施設での全競技網羅は不可能なため、各圏域で拠点となる施設を位置付け、利用分散化を図ることが重要（イベント会場の棲み分け等）。
- ・ 競技別での拠点の位置付けについて、競技団体や障害者関係団体との連携が重要。

ほか、第2回検討会・第3回検討会にて県内スポーツ施設を視察

- 神戸市立磯上体育館
- 神戸市立市民福祉スポーツセンター
- コナミスポーツクラブ三田
- 県立障害者スポーツ交流館

3 県内施設との連携方策（圏域拠点の考え方）

○現状

県内にスポーツ施設は点在するが、各施設のUD化や職員対応等に差異があるため、障害者が利用しやすい施設にのみ利用が集中し、予約困難な状態が生じている。

○対応

そこで、障害者利用に適する施設を①全県中核拠点施設、②圏域拠点施設、③市町拠点施設の3段階に分けて位置付け、県内各施設との連携を通じた利用分散化等を図ることで、適切な利用状況を目指す

（詳細：次ページ参照）

※ ②圏域拠点施設の考え方について

- ・拠点を地域別にのみ設定した場合、選定された施設によって備えている機能（実施可能な競技種目）に違いがあるため、地域によっては対応できない競技種目が生じるおそれ
- ・競技ごとに拠点を設定する場合、種目によっては対応可能な施設が県内に限られることから、すべての競技種目に対応できるよう各圏域に拠点施設を配置することは困難

↓

そこで、各施設の有する機能と立地場所の2点に着目し圏域拠点を設定する （詳細：次ページ参照）

（参考）昨年度第5回検討会時の圏域拠点の考え方案

区分	県の支援内容	支援方針
案1 地域ごとの圏域拠点	拠点への位置づけ	・各圏域に1箇所、中核拠点を補完し、体育館・グラウンド・プールいずれかを有するアスリート育成等の中心拠点となる施設をユニバーサルな圏域拠点に位置づける
案2 競技ごとの拠点		・各競技毎の拠点となる施設を、アスリートとの練習会、記録会、競技会等の実施について調整したうえでユニバーサルな拠点に位置づける (例：県立円山川公苑(豊岡市)のカヌー競技、県立尼崎スポーツの森(尼崎市)のプール競技、県立三木総合防災公園陸上競技場の陸上競技(三木市)など)

3 県内施設との連携方策（圏域拠点の考え方）

区 分	考え方・支援方針
全県中核拠点施設	<考え方> 県内のスポーツ施設と連携を図り、全県レベルの施設拠点として機能。 <支援方針> ソフト面の充実 県立障害者スポーツ交流館の機能強化（全国・全県レベルのスポーツ大会実施、人材育成（審判・指導者講習会、アスリートとの練習会・記録会・競技会）、普及活動（パラスポーツ教室）の充実 等
圏域中核拠点施設	<考え方> 体育館・グラウンド・プールのいずれかを有し、UD化に向けたハード整備が一定進んでいる施設を、各圏域（神戸・阪神、播磨、丹波、但馬、淡路）1箇所以上圏域中核拠点施設として位置付け、<u>全県中核拠点を補完する施設</u>として機能。 <支援方針> 各施設の実施競技・施設特性等について、県・県障害者スポーツ協会が積極的にPRするほか、各種大会等での活用を想定 等
市町拠点施設	<考え方> 体育館・グラウンド・プールのいずれかを有し、UD化に向けたハード整備が一定進んでいる施設を、障害の有無を問わず近隣住民が気軽に利用できる施設を選定し、<u>パラスポーツ普及の場</u>として機能。 <支援方針> 各施設の実施競技・施設特性等について、県・県障害者スポーツ協会が積極的にPRするほか、各種大会等での活用を想定 等

3 県内施設との連携方策（圏域拠点の考え方）

- ・ U D化に向けたハード整備が一定進んでいる施設を圏域拠点位置付け候補として想定
- ・ 該当施設のない圏域（丹波・淡路）については、障害者利用実績の多い公立施設を位置付け候補として想定

<昨年度実施アンケートにおいて拠点に関心ありとの回答があった施設>

所在圏域	施設名【設置者】（機能）	圏域レベル 大会実績
神戸・ 阪神	県立障害者スポーツ交流館【県】（体育館） ※全県中核拠点として	○
	神戸常盤アリーナ（兵庫県立文化体育館）【県】（体育館、プール）	○
	神戸市立磯上体育館【神戸市】（体育館）	
	神戸市立中央体育館【神戸市】（体育館）	○
	神戸市立須磨体育館【神戸市】（体育館）	
	猪名川町スポーツセンター【猪名川町】（体育館、グラウンド、テニスコート）	—
	コナミスポーツクラブ三田【民間】（プール）	—
播磨	県立ふれあいスポーツ交流館【県】（体育館、プール） ※全県中核拠点として	
	小野市総合体育館【小野市】（体育館、プール）	○
	匠台公園体育館【小野市】（体育館）	○
	姫路市すこやかセンター【姫路市】（プール、グラウンド）	—
	スポニッパーク一宮【宍粟市】（体育館、プール、グラウンド、テニスコート）	○
	宍粟市千種B&G海洋センター【宍粟市】（プール）	—
但馬	県立但馬ドーム【県】（グラウンド）	○

4 県内施設のUD化に向けた情報提供

昨年度実施のアンケート調査結果において、利用者から障害者利用においてハード面整備が不十分との意見が多かったことを踏まえ、先進的なパラスポーツ施設の具体事例をモデルとして市町・民間スポーツ施設等に呈示し、既存スポーツ施設のUD（ユニバーサルデザイン）化を促進する。

○ 県内UD（ユニバーサルデザイン）先進施設事例 候補

昨年度の視察結果を踏まえ、駐車場、スロープ、トイレ、エレベーター、更衣室、館内の案内表示の整備がなされている以下の県内スポーツ施設等を対象に選定

○ 県立障害者スポーツ交流館

- ・県内のパラスポーツのメッカとして機能。
- ・施設の老朽化は見られるものの、トイレや更衣室などスペースが広く確保されているほか、エレベーター、アリーナ、更衣室、トイレ等の動線に配慮されており、障害のある方にとって非常に使い勝手の良い施設と評価されている。

○ 県立ふれあいスポーツ交流館

- ・施設の老朽化は見られるものの、トイレや更衣室などスペースが広く確保されているほか、プール内スロープの整備など障害のある方の利用を念頭に設計されている。

○ 神戸市立磯上体育館

- ・案内表示面での不足はあるものの、床材（タラフレックス）、LED照明などスポーツ施設として最新の設備を有するほか、更衣室・トイレの配置などにおけるUDへの配慮が見られる。

（サンプル写真 次ページ掲載）

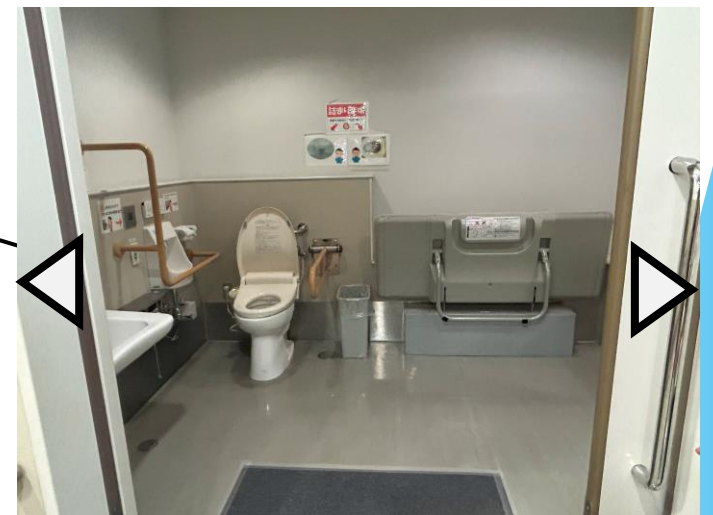
4 県内施設のUD化に向けた情報提供

UD先進施設紹介サンプル（県立障害者スポーツ交流館）



UD先進施設として選定した各施設の設備（トイレ、更衣室、駐車場等も含む）について、360度カメラを用いた写真を用いたバーチャル案内による紹介ページを公開する。

身体障害者・オストメイト対応トイレ



写真内のお好みの場所をスクロールすることで自由に見渡すことができるため、実際に足を運んだ場合に近い感覚で施設内をイメージしやすい。